

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	0171401300		
法人名	有限会社ハマダコーポレーション		
事業所名	グループホームおもひで		
所在地	函館市東山3丁目2番4号 (電話) 0138-32-5595		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年1月25日	評価確定日	平成20年2月29日

【情報提供票より】(19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年10月11日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000円	その他の経費(月額)	23,000~28,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 450円
	夕食	450円	おやつ 100円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	1	要介護2	3		
要介護3	2	要介護4	1		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 83.6歳	最低	75歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菅原内科クリニック・医療法人富田病院・高野外科肛門科胃腸科 他
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は函館東部の静かな住宅街に立地し、純日本風の家屋を改築し平成16年に開設された。事業所前には平野が広がり、利用者は散歩を楽しんでいる。運営推進会議には町内会会長や婦人会長等が参加し、意見・助言等を積極的に出され、事業所の運営に反映させている。また、町内の行事に事業所が参加するなど、地域に密着した交流を図っている。今後も運営者の「地域とともに」という思いをもとに、利用者が地域においてその人らしく生活することが期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題であった「理念の啓発」について、事業所便りの発行を進めるなど、改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、更なるケアサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、利用者の状況や職員の交代等について報告し、意見交換を行っている。そこで出た意見や案を事業所の運営に反映させている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	重要事項説明書に内部・外部の苦情相談窓口の住所や電話番号等を明示し、家族に伝えている。また、職員は家族の来訪時には積極的な声かけをし、家族の意見・要望等をより多く聞きだせるよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事に参加したり、事業所の行事には近隣住民が参加するなど地域との連携を図っている。また、近隣住民の子供達が事業所を頻繁に来訪しており、交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中で利用者の生活を大切にし、一人ひとりが穏やかに楽しく生活すること」を盛り込んだ独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の要所に理念を掲げ、職員は日々確認しながらその実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加したり、事業所の行事に近隣住民が参加するなど、地域との連携を図っている。また、近隣に住んでいる子供達が事業所を頻繁に来訪するなど、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、更なる質の改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	利用者家族・地域住民・婦人会会長・市の職員・地域包括支援センター職員等が出席し、運営推進会議を開催している。会議では利用者の状況等について報告し、意見交換を行っている。		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	必要に応じて市・保健所・地域包括支援センターの職員等に連絡を取り相談等で情報交換を行い、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	定期的に家族に写真を送付し、利用者の暮らしぶりを伝えている。また、金銭管理については出納帳のコピーと領収書を送付し、内容を明確にしている。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	重要事項説明書に内部・外部の苦情相談窓口を明示し、家族に伝えている。また、職員は家族の来訪時に声かけをし、家族からの意見・要望等をより多く聞くよう努めている。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	馴染みの関係を崩さないよう、職員の異動等は最小限となるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員は交代で地区ブロックやグループホーム協議会主催の研修に参加している。研修受講後は内容を報告し、他の職員へ周知している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入し、運営者が道南ブロックBの代表となっている。職員は研修会や勉強会に参加した際に同業者と交流し、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に利用者に事業所を見学してもらったり体験利用できる機会を設け、事業所の雰囲気に馴染んでからの入居となるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理・盛り付け・庭先での野菜づくりなど、職員は利用者から教えてもらうことが多く、互いに支え合う関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	職員は利用者の生活歴を大切にし、一人ひとりの希望や意向の把握に努め、その人らしい暮らしとなるよう支援している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	一部センター方式を取り入れ、家族の意見を取り入れた介護計画を作成している。また、連絡シートやスタッフノートを活用しており、具体的な介護計画となっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	定期的な見直しを行うとともに、利用者の健康状態に変化があった場合は、そのつど家族と話し合い、新たな介護計画を作成している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	家族の状況や要望に応じた柔軟な支援を実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	利用者それぞれのかかりつけ医への受診支援を行っている。また、状況に応じて訪問診療を受けたり、医師の指示を仰ぐなど、医療機関と密なる連携を取っている。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	運営推進会議や会議において重度化・終末期に向けての方針について話し合っている。また、内容を家族やかかりつけ医にも伝え、情報を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員は利用者の誇りを損ねることのないような言葉かけを心がけている。また、記録簿等の個人情報に関しては保管場所を取り決めて厳重に管理しており、適切に対応している。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	職員は利用者の過ごし方の希望を聞き、その人らしく過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の健康状態に合わせて刻み食にするなど調理方法を工夫し、和やかな雰囲気の中で職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前に血圧・体重等を計測し、毎日入浴支援を行っている。また、温泉湯や変り湯など工夫し、入浴が楽しみとなるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・洗濯物たたみ・野菜作り・ダンスなど、利用者一人ひとりの生活歴に合わせた役割や楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・ドライブなど、一人ひとりの希望に応じた外出支援を行っている。また、地域の餅つき大会や公園でバーベキューを楽しむなど、日常的に戸外に出られるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の理由から夜間は施錠しているが、日中は鍵をかけておらず利用者の自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間も想定した避難訓練や消防訓練を定期的 に実施している。また、緊急対応マニュアル を掲示したり、避難場所を確保するなどし、 備えている。また、緊急時に地域から協力が 得られるよう働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	職員は食事・水分摂取量等をバイタルチェッ ク表に記録し、必要な量を確保できるよう支 援している。また、利用者の嗜好を考慮しな がら献立を作成し、偏りなく栄養が摂れるよ う支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には観葉植物や花が飾られ、また、 冬期には火鉢が置かれるなど、季節感が感じ られるとともに家庭的な雰囲気有している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの家具・ 仏壇・写真等が持ち込まれており、本人が安 心し穏やかに暮らせるよう工夫をしている。		

 は、重点項目。